

# NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人  
長野都市経営研究所

Vol.51

2015.APL.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail: nupri@nupri.or.jp

## NUPRI 創立20周年記念 全体懇談会

創立20周年を迎えたNUPRI  
地域の経営リーダー集合体としての  
個性と存在感を発揮し、  
地域の元気創造に貢献を

平成27年2月25日 午後3時〜 長野ホテル犀北館にて開催

北陸新幹線延伸開業、善光寺御開帳を控えた2月25日、「NUPRI創立20周年記念全体懇談会」が役員・会員あわせ60余名の出席により開催されました。理事長のあいさつ及び各部会の発表を通じ、ポストオリンピックへの取り組みから20年を経て、NUPRIが果たすべき役割や社会がNUPRIに期待するものが確実に変化し、それに対応した活動を進めていることを確認し合うとともに、財政安定化、世代交代、会員増強など喫緊の課題についても認識し合う懇談会となりました。また、当日はNUPRI顧問の日本銀行松本支店長の林新一郎氏がご出席され、NUPRIの活動を鼓舞する言葉をいただきました。会場を移して行った講演会では、長野市第一庁舎及び長野市芸術館の設計を手がけられた建築家・楨文彦氏により「建築と街づくり」をテーマにした講演が行われ、一般の聴講者を含む約200名が耳を傾けました。

懇親会は、樋口博長野市副市長、北村正博長野商工会議所会頭にもご出席いただき、なごやかに行われました。

### 理事長あいさつ



### 20周年を迎えて

市川理事長

日頃、NUPRIの活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。NUPRIは昨年8月に創立20周年を迎え、ここにその節目を記念する全体懇談会を開催することとなりました。本日は日銀松本支店の林支店長にもお越しいただき、心より御礼申し上げますとともに、全国の活性化事例を数多くご覧

いただけたものと期待しております。

先ごろのトピックスとして、今年1月31日より新幹線長野駅の発車メロディーが「信濃の国」に変わりました。もうお聞きになったでしょうか。こ

れについては、北陸新幹線延伸開業に伴う長野活性化のため、以前から取り組んできた我々NUPRIの功績が大きいと自負しています。また、善光寺御開帳に向けて進められている「パワースポット散策」の提案をはじめ、各部会の活動についても大いに期待するところです。

それにつけましても財政不如意という切迫した状況脱却のため、皆様には改めて会員増強のご協力を願います。次第でございます。

さて、本日はこの後、世界的に活躍しておられる建築家・楨文彦先生の講演も予定しております。会員の皆様にとりまして有意義な20周年記念懇談会となりますことを祈念してごあいさついたします。

## 部会活動中間報告・ 今後の活動方針発表

全体懇談会は岩野事務局長の司会により進行。各部会・委員会の代表から、今年度の下期以降の活動報告と今後の活動方針について発表が行われました。

### ■観光母都市ながの部会

#### (1) 総括

遠来の方々におもてなしのネタを提供する新たな取り組み



市村副理事長・部会長

北陸新幹線の延伸開業、善光寺御開帳ともカウントダウンにりました。長野の魅力を掘り起こす中で、当

部会は善光寺周辺をはじめ、長野の各所に思いがけず多くのパワースポットがあることを見出しました。これが今までにない新たな長野の魅力発信となり、御開帳期間中、長野を訪れる方々の再来を促すきっかけとなることを確信しています。この取り組みは、長野に住む皆さんに来訪客をおもてなしするネタを提供することを大きな目的としています。ぜひ地域を理解し、利用していただきたいと考えます。

#### (2) 新幹線の発車メロデー

「信濃の国」が実現

掛谷理事・副部会長



県歌「信濃の国」を長野駅に流そうという、かねての取り組みが、北陸新幹線延伸開業を前に実現しました。

「信濃の国」は長野に来訪する方々に、地域の歴史と豊かな地域性をご理解いただくまじとない楽曲です。この曲を通じ、長野に暮らす私たちも地域に誇りを持ち、子供たちに伝えていきたいものです。新幹線延伸で長野が通過点になるとの懸念がありました。しかし企業が長野に新たな支店を開設する動きが出ています。長野駅がハブ化し、長野がビジネスや文化の「核」となっていくことが期待できるのです。そのためには地域としての「格」を高めていく必要も感じています。皆さんにもご協力いただき、長野の発展にこれからも尽力してまいります。

#### (3) 長野のパワースポット発掘と 周遊コースガイドの制作

夏目理事・副部会長

来訪客の滞在時間が短いことが、かねてより長野市の大きな課題でした。そこで今まで知られていない魅力を発掘する活動を続けてきました。そこで見出したのが善光寺ゆかりのパワースポットの数々です。これらを結び回遊コースを設定しました。



①湯福神社、妻科神社など善光寺の守護神をめぐるコース。  
②駒形駒弓神社、ブランド薬師など、善光寺と一

直線につながる不思議な位置関係にある神社をめぐるコース。③歴史ある古刹をめぐるコース。④浄瑠璃山浄光寺、権堂金毘羅宮など良縁を得るコース。⑤赤地藏参拝コースなど。現在、ガイドブックを制作中です。御開帳期間にぜひご利用ください。

#### (4) 御開帳と連動する企画として開催 門前まち花遊歩

鈴木理事兼事務局次長



3年前の9月にスタートした「門前まち花遊歩」は、おかげさまで好評をいただき、長野のイベントとして定着

しつつあります。今般の御開帳では開幕前日の4月4日、ウエルカム長野実行委員会のパレードの先陣を切って長野駅からセントラルスクウェアまでを、和服姿の女性たちが華やかに歩きます。今年は長野県外からの参加も誘致しようと金沢、富山、上越、福井、静岡、そして銀座NAGANOなどにチラシを置いてPRを図っています。また、ソフトな発想と視点で長野市の文化を考えていこうとする「門前文化談義」にもNUPRI代表として加わっています。先ごろ行われた「門前文化談義」も盛況でした。皆さんもぜひご参加ください。



## ■新産業創出部会

### 生産者の高齢化への対応が喫緊の課題

竹内理事・部会長



「りんごの木オーナー制度」は昨年11月で15回目を数えることとなりました。昨秋の収穫祭では参加者120

名余りが生産者さんの話をうかがい、意義深い会となりました。一方、「採れたて野菜市」は10年目を迎えます。どちらも主役である生産者さんの高齢化や跡取り不在の問題が深刻化しており、近々に具体的な対応を考えなくては継続が困難です。中山間地の農業経営者の後継者問題と合わせ、活性化に向けて前向きに取り組んでいきたいと考えています。

## ■わいがやサロン

### 楽しみながら長野のまちづくりに寄与

岩野事務局長



月1回、会員の皆さんが集まり、自由な空気の中でわいがやがや意見交換をしようとしていこうとスタートした

このサロンも、おかげさまで52回目を迎えます



す。直近では、石川県の旅館・加賀屋の社長をお迎えし、本物のおもてなしについて語っていただきます。多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

事務局として一言申し上げます。創立20年を迎え、世代交代の必要性を感じています。若い会員の皆さんによる新しい発想の取り組みも形を見るに至っています。しかしながら会費だけではまかなえず、取り崩す蓄えにも限界が見えています。これほど純粹に長野のために取り組んでいる組織は他に例がありません。ぜひ会員を増強し、我々が目指す望ましい、また、活気あふれる長野のまちづくりを継続していただけることを願わずにはいたしません。皆さんのご協力を改めてお願いいたします。

## コンセプトの共有とその継続性が地域づくりの鍵

日本銀行松本支店 支店長 林 新一郎氏

NUPRI創立20周年をお祝い申し上げます。

現在、日本経済は緩やかな回復基調にあります。消費増税の反動もやわらぎ、また、アメリカをはじめ世界経済も緩やかな上昇を続けています。賃金の上昇が具体的に見えづらい状況のなか、昨年の急激な円安で消費者のマインドもやや下降気味となりました。企業の設備投資意欲は全体に弱い状況ですが、早く時流をとらえ、投資に転じることが、今後望ましい結果を生むと、今の時点では見えています。



さて、私は平成2年から大分に1年2ヶ月赴任しておりました。新日鉄や東芝の半導体工場をはじめとする大規模な製造業が多い地域でしたが、私が担当していたのは観光業の調査でした。皆さんの報告をうかがいながら、当時のことを懐かしく思い出しておりました。当時、大分の湯布院はまだそれほどメジャーにはなっていませんでしたが、何人かのオーナーが非常に頑張っており、いろいろなイベントをまちの中で地道に展開しておりました。大型リゾートによる開発の動きに対し、地域独自の条例をつくり湯布院というブランドをつくり上げる過程にありました。彼らは自分たちのまちのコンセプトをしっかりと持っていたのです。

どういうまちを目指すかというコンセプトを、まちの人々が共有し合うこと、そして、それを継続させていくことが地域づくりの鍵になります。20年間の皆さんの活動を礎に、これからも活動を継続させ、長野をさらに盛り上げていただきたいと思います。大いに期待しております。

## NUPRI 顧問・鷺澤氏と監事・春日氏 平成26年度 勲章受章

昨年秋の叙勲で、鷺澤正一氏（前長野市長、NUPRI 初代理事長、現特別顧問）が旭日中綬章、春日英廣氏（長野県中小企業団体中央会会長、ニッキフロン株式会社社長兼社長、NUPRI 監事）が旭日双光章を受章されました。

NUPRI 会員一同、受章をお祝いするとともに、お二人のこれまでのご活躍とご功績に心より敬意を称し、今後の更なる幅広いご活躍とご健勝をご祈念いたします。



鷺澤正一氏ご夫妻



春日英廣氏

## NUPRI創立20周年記念講演会

## 建築とまちづくり

## 長野第一庁舎及び

## 長野市芸術館設計への思い

講師 榎 文彦氏



講演会は、NUPRIの活動を伝えるビデオ上映、この1月から新幹線長野駅で流れている「信濃の国」の発車メロディーに続いて開催されました。一般公開で行われ、約200名の人々が世界的建築家・榎文彦氏のお話に熱心に耳を傾けました。

現在建設中の「長野市第一庁舎」「長野市芸術館」を設計した関係で、長野には度々来ております。私自身は大規模な都市計画の専門家ではなく、どちらかというと単独の建築または集合の建築に60年ほど携わってまいりました。そこで本日は、そうした中からまちづくりに関心を持って取り組んできた作品、あるいはこれからのまちづくりに関連していくであろう作品をご紹介します。

## ■代官山ヒルサイドテラス

(東京都渋谷区)

これは集合住宅、店舗、オフィスからなる複合施設です。1969年に第一期工事がスタートし、その数年後に第二期、6〜7年後に第三期と、界隈の大地主である朝倉不動産

の依頼で少しずつ工事を進めていき、25年後の1992年、第6期工事により完成に至りました。このように少しずつ作っていくことは、建設した後で出てくる、もったいないという部分を次の工事に反映させられる点にメリットがあります。変化していく時代や人々のライフスタイルに応じた形式、様式、あるいは施設のアイデアがこの中に詰められ、今のかたちになったのです。

工事をスタートさせた頃、この一帯の敷地は最高高さ10mと容積率150%に制限された第一種住居専用地域でした。しかし交通量の多い幅22mの道路に沿って壁面線があり、そこにレストランや商店を設けると同時に小さなオーブンスペースを各所に取ることで、全体としてまとまりのある空間を構成しました。長野でも共通する点だと思

いますが、いい住居環境をつくらうと思えば、超高層マンションを建てて大きな広場を設けるという形式は望ましくありません。その点でも、低層にすることにより、住む人、働く人にとってさまざまなかたちで出合いがある環境をつくることができました。第一種住居地域のため制約が多く、緑の多い環境となったこともプラスに働いたといえるでしょう。将来を見据えた場合、長野市のような人口40万人規模の地域に本当に超高層マンションが必要かどうか、よくお考えになったほうがいいでしょう。これからの都市の住居環境には低層が適している、私は考えています。

道路の幅が広いと、そこに沿った建物は高層にして容積率を上げるのが一般的です。しかし、ヒルサイドテラスの前の道路幅は22mありながら、建物は低層高密度の建物となっており、歩道、並木を設けて道幅を狭く構成しています。それによって風格のある街並みを実現するとともに、店舗、文化施設などパブリックな空間に広い歩道からゆったりと

## 【榎 文彦氏 プロフィール】

1928年東京生まれ。1952年東京大学工学部建築学科卒業。1954年ハーバード大学大学院建築修士課程修了。1965年株式会社榎総合計画事務所設立。

1962年「名古屋大学豊田講堂」で日本建築学会賞受賞。ほか建築界のノーベル賞とされるプリツカー賞、村野藤吾賞など受賞多数。

主な作品に「スパイラル（東京）」「代官山ヒルサイドテラス（東京）」「幕張メッセ（千葉県）」「朱鷺メッセ（新潟県）」「4ワールドトレードセンター（米国ニューヨーク）」など。また、現在建設中の「長野市第一庁舎」「長野市芸術館」の設計を手がけた。

入っていきけるようになっていきます。これは我々の生活にとって非常に貴重なことなのではないかと考えます。

そのほか、第三期の時点で施主の朝倉さん



から文化施設を積極的に入れたいというご希望をいただき、その後、第五期では地下ホール、第六期では前庭に続くカフェ、ギャラリーなどを設けました。その結果、代官山は音楽家やアーティストが集い、人々に文化的な出会いを提供する場所として定着しました。しかも、単純に年齢層とか居住者・非居住者といった枠組みを超えた出会いが生まれる場所となっています。かつてつくられたニュータウンで一気に高齢化が進み、社会的な問題となっていますが、こうした状況を変える取り組みとして参考になるのではないのでしょうか。また、カフェやギャラリーは、都会に住む人々にひと時の安らぎの場を提供する役割も果たしています。

最近、この近くに蔦屋書店が運営する「DAIKANYAMATISITE」ができました。朝7時から深夜まで営業している書

店を中心に、さまざまな店舗・施設が集まる複合施設です。蔦屋を「動」とするならば、ヒルサイドテラスは「静」。これまで以上にいろいろな層の方々が交流するエリアとなり、都市環境に厚みが増しました。

### ■横浜アイランドタワー

(神奈川県横浜市)

2003年に完成した横浜アイランドタワーは、「古いものを意識しながら新しいものをつくる」というコンセプトのもとに設計された第一銀行の建物がありました。それを壊したり、ファサードのみを貼り付けるような安易なリニューアルを施すのではなく、一部移設して古い状態を生かし、あるいは忠実に再現して利用することを提案しました。ただし全面移築には莫大な費用がかかるため、典型的な先端バルコニーの部分のみ約170m移築し、後は原型と同じ複元施設としました。更にその後ろ部分に新たに高層ビルを新築する方法を取りました。元銀行のシンメトリー(左右対称)なデザインを生かし、高層ビルも軸線をそろえたシンメトリーな意匠にしています。

このように「古いもの」をどうするかという発想が、新しいまちづくりには大切であると考えます。再生された旧銀行の建物部分は、横浜市のコミュニティ施設として市民に活用されています。人口が減っている時代だからなおのこと、古いものを大事にし、再生することの重要性が増していると思います。

### ■名取市文化会館

(宮城県名取市)

名取市は仙台のベッドタウンにあたります。1997年、ここに新しい文化施設を

つくりました。ちょうど長野市の芸術館のような施設です。2011年の3・11の災害の時、名取市沿岸にある仙台空港などは大きな被害に遭ったのですが、幸いこの施設を建てた場所は津波の被害には遭わず、長い間、避難された方々が利用されていました。災害の際、学校、体育館など公共施設に避難するケースが多いのですが、たいていの場合、そうした施設は洗面所・トイレなどがおそまつたりとつくってあったため、ここに避難した方々からはずいぶん感謝されました。

その後、ドイツで財団を持っている知り合いの篤志家が、津波で壊滅した幼稚園の復興を申し出てくれました。我々は幼稚園を単独でつくるのではなく、高齢者と子ども、母親など幅広い世代が交流できる施設を、文化施設に併設するかたちで建設することとしました。今のところ高齢者の利用は思ったより少ないという課題はあるものの子供には大変人気があり、地域の復興と活性化に貢献できたという手応えは感じています。

まちづくりは一つ一つの建物の集積です。その一つ一つをどんな考えの下につくるかが大切であって、立派なものを一つつくったとしても、それだけでは完結しないことを、それに関わる人間は知っておくべきでしょう。

### ■三原市芸術文化センター

(広島県三原市)

広島県三原市は人口10万人程度の都市です。ここに2007年に文化施設を建設しました。大きな公園の中という環境を生かし、劇場と広大なホワイエという一般的なホールのつくりかたではなく、市民が遊びに来たときにくつろげる場所を設ける方向で計画しました。こうした考え方は、長野市芸術館

の設計にも生かしました。1、2000人入るホールの前のホワイエには中庭をつくっています。人口10万人くらいの都市の場合、ホールが毎日催し物で埋まることは、まず考えられません。だからといって催しが何もない日にホワイエもクローズしているのはもったいない。そこで、市民がいつでも自由に利用できるパビリオンの空間を考えたのです。その結果、多目的ホールを核に、中庭、広場、カフェなどのあるオープンで親しみやすい施設ができました。新幹線が近くを通るため、騒音対策なども講じましたが、こうした経験が長野市芸術館の設計に役立っています。

私達がびっくりしたのは、広場で披露宴が行われるようになり、市民にすっかり親しまれるようになったことでした。時にはお祭りなども行われます。市としても貸し出すことで増収になるわけです。月に数日だけ使われているというような施設にしないことも、これからの市民文化施設を考えるうえで大事なことだと思います。

建築というと、ある目的のためにつくられるものと考えがちですが、これからは、ある一定の空間に汎用性を持たせ、多様な人々が多様な交流を持てるような空間とすることが、もっと重要になってくるでしょう。

### ■町田市庁舎

(東京都町田市)

### ■長野市庁舎・長野市芸術館

(長野県長野市)

2012年に完成した町田市の新庁舎は緑を多くすること、市民と職員との接触率の高い環境にすることを意図して計画しました。市民に親しまれ、職員が仕事をし易く、かつ豊かな空間となるような市庁舎をつくるのが重要と考えました。その経験を、



今回の長野市庁舎ならびに長野市芸術館の設計にも生かしています。

長野市の場合、非常にタイトな敷地の中に市庁舎と芸術館という2つの施設を配置し、どう接合させるかが課題でした。その接合部分に中庭を設けることにより、緑によって2つの建物をつなぐプランニングとしています。1階はライブラリーのある市民交流広場となっており、芸術館へはここから中庭の脇を通ってホワイエに入ります。ホワイエにはカフェ、ギャラリー、ホールを設けています。2階には市のワンストップロビーがあり、その周囲に執務スペースがあります。ここからも庭を通って芸術館に向かえるようになっています。また、第2庁舎とも接続しています。3階以上は執務スペースとし、最上階に議場を設けました。芸術館の1,300人収容の大ホール、300人収容の小ホールとも、日本でも一流の音響事務所と組んで設計しています。また、木を使った、ぬくもりのあるデザインです。今回の設計にあたっては三原市芸術文化センターと町田市庁舎に携わったスタッフとチームを組み、進めています。本

日も工事現場に立ち寄ってきましたが、デザインの通りに工事が進んでいました。皆さんにも完成を心待ちにしていたきたいと思います。

### ■島根県立古代出雲歴史博物館 (島根県出雲市)

### ■インドビハール州立博物館 (インド)

### ■トロントアンファンミュージアム (カナダ)

### ■4ワールドトレードセンター (アメリカ合衆国)

さて、私は、地域を象徴する建築物の設計において、その地域や、そこに展示されるものを象徴的に表現する意匠や素材を使い、建物の印象を大切にするようにしています。

島根県立出雲博物館の場合は、出雲という地域の歴史と、中国・韓国を経由して輸入された鉄器を最初に茲でも作られた場所であることを記念する意味で、赤いコルテン鋼という防錆性のある特殊な鉄材を用いました。

また、出雲の鉄のルーツをさらにたどると、もともと鉄はインドにあったものが渡ってきたという縁があります。そこで、現在、インド・ビハール州の首都で建設中の州立博物館にも、赤いコルテン鋼を大量にシンボリックに使っています。

トロントに2014年に完成したアンファン美術館は、北米で最初のイスラム芸術の美術館です。プランニングから10年の歳月を要しましたが、この設計では自然光を大切にし、外部がモダン、内側にはイス

ラムの空気が感じられる構成にし、中庭を効果的に配置しました。

昨年、ニューヨークに完成したワールドトレードセンターのタワー4は、9・11のメモリアルパークとの関係で、ガラスの彫刻をつくることを意図し、壁面全体をミラーとしました。

### ■広場を考えて都市をつくる

ここからは視点を変えて、広場についてお話しします。江戸時代、將軍家による統治が300年もの長きにわたって続いたのは、一つには参勤交代によって大名を疲弊させたことがあると思いますが、もう一つ、厳密な封建社会によって身分の秩序が非常にはっきりしていて、士農工商がそれぞれどこに住むかというゾーニングも明確に行われていたことも大きな理由でしょう。しかし、この士農工商が自然に接触できた場所が江戸城を中心分布する「名所」でした。風光明媚な場所の多くは寺や神社であり、そこには寺子屋のような教育施設があったのです。それが日本人の識字率を高め、明治に入って近代化が急速に進む力となりました。こうした名所の多くが、現代の東京に「公園」として残っています。

軽井沢の西に南原という別荘地があります。地域の大地主で、早大の先生をしていた市村今朝蔵さんという人が、やはり友人であった東大の吾妻栄さんと相談し、約80年前の開設計時に、各戸に垣根や門を設けないことを決め、同時に、日中、子どもたちが集まることのできる公園と寺子屋のような小さな学校をつくったのです。別荘に暮らす人々が自由に接触、交流できるその場所は、80年経った今も別荘地のコミュニティのあり方として重要な役割を果たしています。

東京・北千住に設計した東京電機大学の新キャンパスには、敷地の真ん中に公道と広場があります。そこで塀を設けず、周辺の住民が自由に出入りできるフリーな環境にし、カフェを設けました。イタリア・ポローニャのロジーナという場所をイメージしたのですが、非常にいいかたちで学生や地域の人々が接触しています。また付近の幼稚園の先生が茲へ園児を連れてきて遊ばせるという珍しい風景にも出会ったりします。

ニューヨーク近代美術館MOMAにも、ニューヨーク・マンハッタンのグリニッジ・ビレッジにも、やはり同様の広場があります。こうしたことから考えると、これからの時代のもう一つのユートピアというのは、建物を考えて都市をつくるのではなく、「広場」を考えて都市をつくるのではなく、「広場」を創造し得るのではないかと思う訳です。特に3・11以降、その視点が重要になってきていると感じています。長野の今後のまちづくりの参考にいただければ幸いです。

